



写真集

観光化されておらず、その集落^{山田}だけで数百年、千年以上にもわたって継承されている祭がある。

山田武弘さん(79歳、浜松市中区)は、そうした世界の少数民族や日本の歴史ある祭を訪ねては撮影してきた。

これまで訪ねたのは、北インドの標高3千メートルもあるレーやラダック、西インドの孤島、サハラ砂漠や中国奥地の少数民族の集落。

また、民俗芸能の宝庫と言われる三遠南信(三河、遠州、南信州)の天竜川水系、全国各地の祭や神事など。

その整理の仕方がすごい。祭の起源や歴史、式次第などをまとめて冊子(100ページ余)としている。

これまで10冊以上にもなる。「長野下伊那・新野の雪まつり」「奥三河と北遠の花の舞」「秋田・チャグチャグ馬子」「宮崎・銀鏡神楽(しろみかぐら)」「秋田・大日堂舞楽」「山形・黒川能、山口・岩国行波の神舞(いわくにゆかばのかんまい)」「浜松市・西浦田楽(にしうれでんがく)」など。

「こんなにきちんとまとめられているなら、広くみんなに見てもらいたいですね」と質問すると、山田さんは「いやあ、自分自身のまとめ、研究として作っているだけなんだ」という。毎年、改訂しては研鑽を深めている。

祭というと、酒を飲んで大騒ぎしたり、観光化されて見世物的になっていくものも多い。けれども自分たちの集落、集団だけで、神への祈りとして、感謝として捧げる祭があるのだ。そうした祭に出会うと、心打たれるものがある。

浜松市天竜区水窪町の「西浦田楽」などは1300年余の歴史がある。奥深い山里、しかも真冬の夜に行われる仮面劇だ。月が出てから始まり夜明けまで行われる。能や狂言の起源とされる。

ただ、日本各地のこうした貴重な祭は、過疎高齢化によって継承が困難になってきているのも事実だ。

私はいま「西浦田楽」の冊子作りをはじめているので、そのために山田さんをお訪ねしたのだった。写真と資料がほしいというと、「好きに使っていいよ」と気前よく貸してくださった。

また、インドの写真が3千枚くらいあるというので、来年、インドのスライドとトークイベントをやりましょう、ということになった。

浜松市北部地区特派員 池谷 啓